※令和４年度以降入学生用

学校番号	1014

令和８年度　芸術科

教科	芸術科	科目	美術表現	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主作成教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術表現は１・２年次に美術科科目を履修していなかった生徒も履修することができる。
・美術表現では、１・２年次に実施した内容を振り返るとともに、それらの知識技能を生かした応用課題に取り組むことによって、生涯にわたり美術を楽しむ心情を養う。
・学習の到達度は、授業・作品への取り組む態度、提出物、作品の完成度で評価する。

２　学習の到達目標

・授業を通して美術の基礎的・基本的な知識や技術を身に付けるとともに、生活や社会の中に生かされている美術や美術文化と関わる知識や教養を身に付ける。（知・技）
・美術的にどう表現するか、どこまで作りこむかといった判断力・自己表現力を養う。（思判表）
・課題について自己をどう表現するかといった主体的に向き合う態度を育てる。（態度）

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・画材や道具の特性を理解し、正しく扱う知識を身に着けている。 ・色彩や遠近法などの美術に関する基礎的・基本的な知識を身に着けており、それらを作品に生かすことができる。	・自分の表現したいものをイメージし、作品で表現することができている。 ・主体的に形や色を判断・決定し、試行錯誤を繰り返しながら、よりよいものを作ろうと自分の作品と向き合うことができている。	・指導者の示す課題をよく理解するよう努めている。 ・作品制作において、自分の考えを持ち、計画的に作品制作に取り組んでいる。 ・自分の作品を完成させることができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間	平面構成	・モチーフスケッチ ・下描き ・着彩	a:道具や材料の特性を理解し、正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	スケッチ 授業態度
前期期末	セテレーション	・s 図形を決める (アイデアスケッチ) ・下描き ・着彩	a:道具や材料の特性を理解し、正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	アイデアスケッチ 授業態度
後期中間	日本画	・写生(スケッチ) ・下描き ・骨描き(清書) ・着彩	a:道具や材料の特性を理解し、正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	スケッチ 授業態度
後期期末	ハイパーリアリスム	・下描き ・着彩	a:道具や材料の特性を理解し、正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度